愛隣幼稚園

園だより

20. 4月

小さい者が守られますように

４月になったら新しいたんぽぽ組や新しい仲間を迎えて、また愉快で楽しい１年が始められると思っていました。ところが、１ヶ月の春休み延長。モヤモヤとした気持ち、寂しい気持ち、どこかにぶつけたくなる思い、そんなものがひとつも解消されないまま長いトンネルに入ってしまった感じです。こんなことは誰も経験したことがないので、みんなどうしたらいいのか分からない。本当のことや、大事なことは何なのか、何を信じて行動したらいいのかと右往左往しているのに、お国は“税金 466 億円かけてマスク２枚”などとあっけに取られて失笑してしまうようなことを言ってくださるので、ますます不安になってしまいます。身近な人のこと、幼稚園のことも心配ですが、ほとんど話題にならない支援の必要な子どもたちはどうしているのでしょう。ひとり親の家庭はこの先どうなっていくのでしょう。ネットカフェで生活している人たちは・・・。高齢者の家は・・・。在宅勤務が増えて家の中にも子どもの居場所がない、という記事も目にしました。社会的弱者と言われる人たちが真っ先にストレスを受けることになる。行き場がなくなり、当たり前であった日常、やっと成り立っていた生活が成り立たなくなる。それが私たちの社会なのだと気付かされます。本当は自分のことでも精一杯なのですが、やはりどこかに困っている子どもや助けを必要としている人たちが居ることを知れば、私たちの心は痛みを感じます。小さい人や弱い立場にある人たちの命が守られ、１日も早く日常が戻り笑顔になれますようにと祈らずにはいられません。

９年前の震災の時、避難所では子どもの居場所がなくなりました。子どもは元気で賑やかなのが当たり前ですが、皆が我慢をしている時には、子どもも我慢が当然でした。でも、そんな時こそ守られなければならないのは、小さな人、弱い立場の人です。それで、子どもたちのためにと、遊ぶ場所・学ぶ場所・大きな声を出せる居場所作りをしたボランティアの人たちがいました。楽しそうにはしゃぐ子どもたちの映像にほっとしたことを覚えています。今も、あの時と同じような気がします。子どもが子どもらしく居られるように、こんな息の詰まるような毎日ですが、知恵と力のある者たちは少しでも考えなきゃなと思います。外に出られないので１人になれる段ボールハウスでもいいのかもしれません。考えるのはお家の皆さんだけではなく、私たちも子どもたちの気持ちが緩んだり、笑ったりできることを考え、やらなきゃなと思っています。それで愛隣幼稚園の先生たちから子どもたちに動画を配信することにしました。少しは笑顔になれるでしょうか？ほっとすることができるでしょうか？幼稚園の再開を楽しみにしてもらえるでしょうか？そして幼稚園の保育はお休みですが、幼稚園は開いています。午前中なら園庭にふらっと立ち寄ってください。少時間でも息抜きくらいにはなるでしょうか。外に出るのが心配というご家庭もおありでしょうから、もうだめだ！と思う前に幼稚園に電話してください。誰かしら居ますから。ちょっとでも少しでも繋がっていることで、みんなが笑顔で居られたらと願っています。

３月、卒業していった子どもたちに聖書の言葉を贈りました。

「あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように」

（フィリピの信徒への手紙１章９～10 節）

自分を愛するように、周囲の人を愛する愛が私たちの中に豊かになりますように。その愛を持って本当に重要なことを見分けられますように。混沌として漠然とした不安が世界中を覆っている時だからこそ、なおさらです。本当の愛は小さな者にこそ向けられ、声にならない声を聴きます。奪い合うのではなく、分かち合います。どんな人も大切な一人として尊重し、犠牲を強いることはありません。本当に重要なことは手放さないように、見失わないように。今はトンネルの中ですが、この先の光を目指していきましょう。健康が守られますように。みんなに会える５月が楽しみです！